

評価結果総括表

項目	評価人数				コメント
	A	B	C	D	
調査分析	2人	2人			<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者調査、事業者調査、イベント調査まで貴重なデータを収集できており、分析にも工夫を凝らしている。 ・色々な角度からの調査・分析を活用するよう期待する。 ・今後、具体的な行動に結びつく「戦略的調査」を進めてほしい。 ・戦略的な示唆を得るためには、数値の大小のみならず、「因果分析」「差の分析」などが必要になる。 ・調査結果に基づいて目指すべき方向について（増か、減か、質か等）意思決定が必要。 ・事業者にとって有効なデータ・分析・解析も必要（より深掘りした調査）。 ・イベント来場者調査は継続実施していただき、次回に活用できるものとしてほしい。 ・イベント来場者調査は、各市町への拡大とともに、調査内容・分析に工夫を。 ・自由記述の分析・活用が重要と考える。 ・するが観光レポートは観光関連のデータが一覧でき、利用価値が高いと思われる。ただし、利用の仕方の指導も求められる。
ブランディング	1人	3人			<ul style="list-style-type: none"> ・今後もブレない戦略で継続的にブランド強化をしてほしい。 ・様々な手法を用いての認知度UPの取り組みが見られる。 ・インフルエンサーの活用など、各種媒体を活用した情報発信を継続して実施してほしい。 ・継続して同一手法の顔出し発信ができるように工夫されたい。 ・観光客が「行きたくない場所」は“混雑”しているところなので、これからは「増やすマーケティング」より「減らすマーケティング」（ex. 減築、減室、引き算など）も大切。 ・引き算のブランディングの先進地になる方向性も有望であり、何もせずにぼーっとリラックスして温泉グルメを楽しむタイプの観光は、現代の消費者からの共感を得られやすい。 ・KPIも量から質（比率、1人当たり）に変えていくことも必要。 ・純粹想起は隔年くらいで実施したらどうか。
Learn		1人	3人		<ul style="list-style-type: none"> ・明確な目標達成が必要。 ・何をしたいのかが不明瞭（事業者利益、地域活性化、誘客（参加者数）どれを目指すのか）。 ・体験・学びはリピートされにくい傾向があるため、リピートに結びつくメニューづくりが必要。 ・“学び”は重要なポイントなので、プログラムの内容と対象者については3年目の実施状況を踏まえ再検討が必要と考える。 ・地域にあるLearn資源と、teaやseaとの結びつきを考慮されたい。
Tea	1人	3人			<ul style="list-style-type: none"> ・ティーテラスも茶氷も当地を代表する事業となってきた。 ・茶氷はシーズンイベントとして定着してきている。 ・茶氷は「静岡ならではの」と「季節感」があることに加え「また食べたい」とリピートに結びついており、食べる場（コトづくり）の増加にも成功している。 ・次は「茶シェイク」はどうか。 ・新たな商品開発を行い、より「茶」の魅力を知ってもらいリピート率を上げることを期待する。 ・茶の間・ティーテラスも期待されるが、設置場所については、災害時の状況も考慮して検討する必要がある。 ・Learnや地域の観光資源との組み合わせも考慮されたい。
Sea		3人	1人		<ul style="list-style-type: none"> ・美味しい海の幸に出会う場（コトづくり）が少ないことが最大の課題。 ・「食」のテーマは重要。ブランド化までもっていけると素晴らしい。 ・「勝魚かつ」の継続とさらなる工夫をし、認知度向上を期待する。 ・“勝利のゲン担ぎ”のアピールをさらに強めてほしい。 ・受験シーズンだけでなく、クラブ活動等へも焦点を合わせる取り組みに期待する。 ・参加店舗は増えてきたが、これを焼津以外に広めていくのか、焼津の観光としていくか。
ステークホルダー マネジメント		4人			<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や観光業で働く人もステークホルダーと捉えてほしい。 ・市町の連携度合いに多少の差があるように感じる。静岡市以外へのアプローチはどうか。 ・観光DXは今後不可欠なものであり、注力してほしい。 ・観光DXはどのレベルでどこをやるか整理整頓が必要。 ・引き続き、国の事業等への結びつけ、補助金活用につながる取り組みを期待する。
全体		4人			<ul style="list-style-type: none"> ・限られた人員・予算の中で、精力的・前向きな活動をしている点は高く評価できる。 ・限られた人員・予算の中では、ポイントを絞った事業の実施、発信が重要である。 ・周知手法の効果の評価が可能であれば、限られた予算の中で手法の選択が可能となるのではないかと。いずれにせよ一定期間は継続する必要がある。 ・昨年度の評価結果が生かされており、的確に対応できているので、引き続き改善してほしい。 ・課題への対応はされているので今後の更なる取り組みに期待する。 ・今回の外部評価会議での意見や現場のニーズなども取り込み、するが企画観光局ならではの活動を継続してほしい。 ・DMO自身のブランド作りも大切。 ・現在は大河で盛り上がっているが、これをどう生かすか、アフター大河がポイントとなる。